

PRAEVIDENTIA DAILY (10月29日)

昨日までの世界：ドルが対円で上昇、対その他通貨では概ね下落

昨日は、米株高と米中長期債利回りの上昇の中で、ドル/円は素直に強含み再び108円台となった一方、対その他通貨ではドルが下落する展開となり、特に対カナダドルと対NZドルで米ドル安が顕著だった。米経済指標はまちまちで、耐久財受注、コア資本財受注はいずれも前月比で-1.3%、-1.7%と予想外の大幅マイナス、S&Pケースシラー住宅価格も前年比+5.6%と予想以上の鈍化となったことから、ドル急落に繋がった一方で、その後発表されたカンファレンスボード消費者信頼感指数は94.5と(意外にも)前月および市場予想を大幅に上回り、ドルが急反発したが、対円、対ポンドでは耐久財受注発表後の下落をほぼ取り返したが対その他通貨ではドル反発は限定的となった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.3	+0.02	+0.02	-0.00	+0.05	+0.04	-0.01	+1.2	-0.4	+0.1	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.3	-0.02	-0.00	+0.02	-0.04	+0.00	+0.04	+1.4	+1.2	+0.2	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	-0.01	+0.01	+0.02	-0.01	+0.03	+0.04	+0.6	+1.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.6	-0.07	-0.06	+0.02	-0.11	-0.06	+0.04	+1.2	+2.1	+0.6	
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.3	-0.03	-0.01	+0.02	-0.06	-0.02	+0.04	+1.2	+2.1	+0.6	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.7	+0.01	+0.02	+0.01	+0.03	+0.04	+0.01	+1.2	+0.1	+0.6	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：FOMC と RBNZ のハト派リスク

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓、NZD ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦9月鉱工業生産・前月比	8:50	-1.5%	+2.2%	
NZ・NBNZ 企業信頼感	9:00	13.4		
英9月モーゲージ貸出承認件数 (BoE)	18:30	6.421万	6.225万	
米 FOMC 金融政策決定	3:00			記者会見なし
RBNZ 金融政策決定	5:00	3.50%	3.50%	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

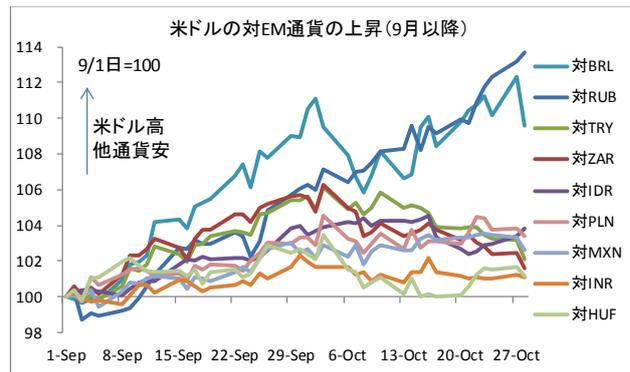
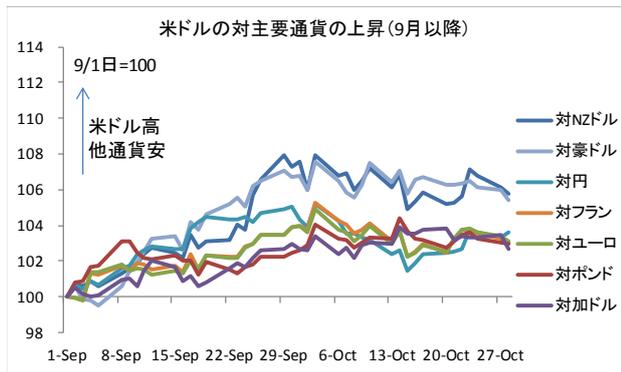
本日は米 FOMC が注目される。FOMC では、量的緩和縮小が終了され、今後の利上げ開始までの期間に関するフォワードガイダンスである「**相当な期間 (considerable time)**」という表現が変更され、より経済指標に依存して利上げ開始が決定されることになる、というのが大方の見方で、「相当な期間」が削除されたというニュースが流れると市場はどちらかというとドル買いで反応する可能性が高く、ドル/円は108円台後半も視野に入る。

但し、FOMC はこの表現の変更によって利上げ開始時期に関する現時点の市場の利上げ期待(来年後半開始)を前倒ししようとする意図しているとは考えられず、今後利上げ開始のタイミングを見極めるにあたって重要な指標をニュアンスで伝えるのが本来の趣旨であるため、フォワードガイダンス変更自体が利上げ開始早期化を意味する訳ではない。むしろ、世界景気の減速リスクを強調したり、現在ゼロ%台の伸びで低迷している実質賃金上昇率や、なかなか高まらないインフレ率、足許低下しているインフレ期待などを指摘し、今後利上げ決定の際の注目指標として挙げられるようだと、ハト派的と受け止められドル安材料となる可能性も残っている。

また、「相当な期間」という表現が維持されるとみる向きも多い模様で、この場合もどちらかという市場はドル売りで反応するとみられ、ドル/円は 107 円台半ばへ反落しよう。当社はこうしたややハト派的な内容となる可能性が高いとみている。

なお、10 月中旬の世界金融市場の動揺を受けて、一時は量的緩和縮小終了が延期されるとの見方が一気に高まったが、その後株価は急反発、落ち着きを取り戻しているため、この可能性は低下したとみられる。

明日早朝の RBNZ 金融政策決定では、政策金利が 3.5% で据え置かれ、声明文では前回同様、今後の引締め必要性を指摘する内容になると予想されているようだが、インフレ率低下を受けて、先行きの利上げの必要性に言及しないリスクがあり、その場合の NZ ドル下落リスクに注目したい。なお、為替に関する表現は、7 月以降の NZ ドル大幅下落にも拘らず、10 月入り後は一服・小反発していることもあって、「現水準は正当化されず、持続不可能で、更なる大幅下落の可能性」という表現が維持されるとみられ、これも NZ ドル下押し材料になりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641